

**ダイキン工業株式会社 2020年3月期第3四半期決算
アナリスト・投資家向けテレフォンカンファレンス 質疑応答
(2020年2月12日)**

Q：年間の営業利益計画である公表値 2,850 億円と、社内での挑戦目標 2,950 億円に対する進捗は。また、戦略経営計画の最終目標である 3,480 億円に向けての考え方は。

A：第3四半期までの進捗としては、化学事業が想定を下回ったが、空調事業でカバーした。空調事業は、国内では、消費増税の反動に加えて暖冬の影響が出たが、海外では、為替影響を除けば堅調に伸びている。挑戦目標の 2,950 億円に対しては、化学事業の落ち込みや、空調事業への為替のマイナス影響が大きい。来期目標である 3,480 億円とのギャップが生じていると認識しているが、全社 10 テーマおよび部門別の 176 テーマを実行計画にブレークダウンし、取り組んでいる。

Q：中国での新型肺炎の流行によりどのような影響がどのくらい出るか。またどのような対策を考えているか。

A：具体的な影響は現時点ではまだ分からない。引き続き情報収集を徹底し、影響を精査するとともに、あらゆる対応策を取るための体制を構築している。中国内で人の動きが制限されていることで、当面、中国内での物流や生産活動、営業活動への影響が考えられる。また、部品の一部を中国から仕入れている地域での調達の影響も考えられる。長期化に備え、生産地の変更や調達先の見直しなど、すでに検討を開始している。

Q：中国の住宅用マルチエアコンの販売状況が、上期に比べて良くなっている背景は何か。

A：市場の変化に合わせて、スピーディに施策を展開してきたことが功を奏している。例えば、高級スケルトンマンションへの建築規制が強化されたことに対し、早い段階から一般住宅向けに価格帯を少し落とした普及型マルチエアコンを投入した。この販売が好調に推移しており、利益面でも貢献している。また、高級住宅向けには更新需要に特化した営業部隊を作るなど、市場の動きに合わせて施策を打っている。

Q：グッドマンの新工場への生産集約が完了したことで、アメリカの空調事業の利益率はどのように改善していくか。

A：生産性の向上により利益率を引き上げる方針。これまで工場の集約のために設備投資や先行投資を重ねてきたことに加え、人の採用と教育に注力している。習熟度に合わせて生産性も上がってくることと合わせ、販売も市場の伸び以上に堅調に伸ばしており生産量も確保できているため、今後生産性の向上による利益率の上昇が見込める。

Q：化学事業について、半導体市場が回復してくるのはいつ頃だと見ているか。

A：半導体市場は回復基調が鮮明になっている。当社は半導体市場の主にメモリ向け原材料を供給しており、半年後には回復すると見ている。

Q：フィルタ事業は減収が続いているが、どのような状況か。

A：第3四半期は、対前年度9割程度の売上高にとどまり、厳しい状況となっている。米国の生産体制の再編や営業体制の強化が急務であり、現地採用や出向者を増やすなど人員の増強を図っている。